

柏木教会月報

東京都新宿区北新宿3-1-18

☎03-3368-2156

牧師 大浦 勝

心を尽くして感謝する

ルカによる福音書一七章一一～九節

その中の一人は、自分がいやされたのを知つて、

大声で神を讃美しながら戻つて來た。（一五節）

牧師 大浦 勝

キリストは重い皮膚病を患つていた十人を癒された。その中の一人は、自分が癒されたことを知つて、大声で神を讃美しながらキリストのもとへ戻つて来て、その足もとにひれ伏し、感謝をささげた。後の九人も同じように癒されたが、キリストのもとへ戻つては来なかつた。彼らも喜び、感謝したことであろうが、キリストに感謝をささげるために戻つて來ることはしなかつた。

確かにキリストは、戻つて来なかつた者たちの癒しを取り消したり、別な悪いを下したりはしておられない。神は、「恩を知らない者にも悪人にも、情け深い」（ルカ六・三五）。わたしたちも受けた恵みとあわれみにふさわしい、それに対応するような感謝をささげることはできていない。神が与えて下さる恵みと注いで下さるあわれみの豊かさに比べれば、わたしたちがささげる感謝はいつも小さく、ささやかなものである。懸命に祝福を祈り求めて、自分をささげて感謝して従うことを誓約しても、時が過ぎれば忘れてしまう。かつての熱心も決意も志も失つてしまふ。

キリストは「ほかの九人はどこにいるのか」と言われ

る（一七節）。わたしたちは今どこにいるのであるうか。十人の中で戻つて來たのはサマリア人であり、ほかの九人は神の民であるユダヤ人であつたということは、神の救いの恵みにあづからず歩むわたしたちに対する警告である。わたしたちはいつの間にか感謝することを忘れ、神の恵みのみわざを当然のこととしてしまつてはいないであろうか。

受けた恵みに対するふさわしい応答とは、このサマリア人がしたように、①神を讃美すること、②感謝すること、③自分をささげて神に従うことである。これこそわたくしたちのふさわしい在り方である。キリストはほかの九人に対しては言われなかつたことを、このサマリア人に言つておられる。「あなたの信仰があなたを救つた」（一九節）。キリストのもとへ戻つて來たこの人は、癒された以上のものを受けた。「救い」である。それは神の民の一員とされ、神との交わりの中を生きる者とされることである。これがわたしたちに与えられている幸いである。この幸いはこの世を生きる間に限られているものではなく、死によつても失われない、永遠の幸いである。

詩編一一編の詩人は、神がおこなつて下さったみわざを覚え、思い起こすことによって、大きな喜びと感謝に満たされている。「わたしは心を尽くして主に感謝をささげる」（一節）。恵みのみわざを覚え、思い起こすとき、わたしたちは同じ神がわたしたちを覚え、思い起こして下さることを確信し、同じみわざをわたしたちのためにもおこなつて下さるという望みを与えられる。心を尽くして主に感謝し、自分をささげて仕えていきたい。